

2006年度事業報告

園芸文化研究所の一年間の委員会、行事、出版事業を報告する。公開講座報告は別項とする。

1. 園芸文化研究所企画運営委員会報告

<委員会構成>

委員長 箱田直紀(人間社会学部教授)、大橋正明(人間社会学部長・教授)、新妻昭夫(人間社会学部教授・人間環境学科主任)、藤田 智(本研究所助教授)、樋口幸男(人間社会学部助教授)、澤登早苗(人間社会学部助教授)

第1回 4月14日(木)

- ・ 2005年度予算執行状況報告と今年度予算案について協議を行った。
- ・ 2006年度研究助成に申請のあった4件(研究プロジェクト:3件、一般研究:1件)について協議を行った。
- ・ 今後公開講座の体系化を検討することとし、秋期講座企画を各担当者に依頼することにした。
- ・ 公開講座講師謝礼の内、専任教員手当は、大学内統一的な基準を設け運用する方針であるとの報告があった。

第2回 12月6日(木)

- ・ 2007年度の研究助成については、申請件数の増加が予想されるので、今年度より増額要求することにした。
- ・ 『園芸文化』第4号及び『KeisenGardenPress』第3号を刊行することを決定した。
- ・ 来年度スプリングフェスタには、「花と生活」、「イギリスの庭園」などをテーマとするミニシンポジウムの開催を検討することにした。

第3回 2月7日(水)

- ・ 来年度スプリングフェスタ5/26には、「ボタニカルアート入門」受講生作品展示・「ヨーロッパ・チャイナ・ペインティング」講師小松千恵

子氏の作品展示、2006年度助成研究ポスター報告(G103教室)、「野菜物語—春編」特別講義、ミニシンポジウム「イングリッシュガーデンと女性園芸家ジークル」で、参加する。

- ・ 2007年度助成研究について

募集要項について協議を行い、一部を修正した。成文を確認後速やかに、全専任教員に配布することを決めた。

- ・ 研究期間を1年以内とすること。

- ・ 次年度助成研究の研究プロジェクト及び一般研究の双方に重点テーマを追加することにした。

2007年度重点テーマは、「園芸教育と地域貢献に関わる研究エリアのテーマ」とする。

- ・ 「コミュニティーガーデン野津田」の管理は、園芸文化研究所所属とし、責任者を藤田智助教授とした。

2. 園芸文化研究所会議報告

<構成員>

議長 箱田直紀、森村洋子、本多洋子、藤田智、宮内泰之

第1回 4月6日(木)

- ・ 春期公開講座申し込み状況の報告があった。
- ・ 『園芸文化』第3号に、故安達瞳子氏、故柳宗民氏の追悼文を収録することにした。
- ・ 第2回恵泉スプリングフェスタに、ボタニカルアート展、助成研究ポスター発表、公開講座紹介で参加する。
- ・ 箱田直紀教授の私案である「恵泉園芸アカデミー」構想について、協議を行った。

第2回 5月24日(水)

- ・ 『園芸文化』の制作日程が短いので、今後作業日程を確保する方向で検討する。
- ・ 恵泉スプリングフェスタ展示室には午前中多くの来訪者があった。

- ・ 2006年度研究助成に申請案件協議を行う。企業との共同研究は本制度の対象としないことの明文化を検討することにした。

第3回 6月15日(水)

- ・ 2006年度予算案の理事会決定をみたので、その予算概要の説明があった。
- ・ 2006年度助成研究を審査し、稟議に付す案件をまとめた。
研究プロジェクト3件(90万円)、一般研究1件(15万円)

第4回 7月9日(木)

- ・ 秋期公開講座の準備を進めている。本多洋子助教授の研修休暇のため、花卉装飾講座を恵泉園芸センターに依頼したところ、11月4日恵泉多摩フェスティバルで開催する申し出があり、これを了承した。
- ・ 「コミュニティガーデン野津田」利用の公開講座で、今後多様な受講生に対応するため、最低限の使用に関する合意が必要である。そのため「利用申し合わせ」を定めることにした。

第5回 8月3日(水)

- ・ 箱田直紀教授私案の「恵泉園芸アカデミー」構想について、意見交換を行った。1)科目の体系化、2)資格とその取得について、3)地域自治体等との協力関係構築について。

第6回 9月21日(木)

- ・ J R横浜線鴨居駅前のららぽーと横浜から、園芸を中心とした公開講座を開設できないかとの問い合わせがあり、これを協議したが、本学及び本研究所として協力しないことを確認した。
- ・ 多摩市から「多摩市民大学」(近隣大学及び住民との共同生涯学習機関)への園芸を中心とした協力要請があり、地元地域への貢献となるので、できる範囲で協力していくことを了承した。
- ・ 旧南野高校前尾根幹線中央分離帯の借用エリアの確認を行い、具体的なプランを検討することで合意した。
- ・ 箱田直紀教授私案である「園芸文化・創造芸術学部構想」についての説明があった。

第7回 10月19日(木)

- ・『園芸文化』第4号に、短期大学園芸科卒業生貫井百合子氏から、投稿希望の申し出があり、これを承認した。
- ・来年度スプリングフェスタへの参加について協議した。ボタニカルアート展と実技等の講座開催を検討することにした。

第8回 11月16日(木)

- ・公開講座「ガーデナー入門」で、12/1千葉方面にバスでの見学会を開催することを承認した(大田花卉市場、ブルーメンガルデン(君津市)、(株)舞浜ビジネスサービスフラワーサービス花卉栽培グループ作業所、ジョイフル本田の花苗生産と販売現場の見学)。
- ・次年度予算請求は、今年度と同額程度とする。
- ・家の光協会のWebサイト「花ぐらし」にある山浩美先生の番組撮影に本学前庭花壇等を使用するとの報告があった。

第9回 12月13日(水)

- ・『KeisenGardenPress』第3号を発行することで了承した。
- ・『園芸文化』第4号の発行は、5月26日恵泉スプリングフェスタ当日とした。
- ・公開講座の謝礼について、大学評議会での協議結果を了承した。次年度より、実施する。

第10回 2月15日(木)

- ・第3回園芸文化研究所企画運営委員会協議を報告した。
- ・第3回恵泉スプリングフェスタの参加は、ガートルート・ジーキルについてのミニシンポジウム、公開講座特別講義「野菜物語—春編—」G103教室で、ボタニカルアート受講生作品展、ポーセリング・ペインティング作品展(講師小松千恵子氏の作品)とすることを承認した。

第11回 3月8日(木)

- ・春期公開講座の開設予定講座について報告があった。
- ・『KeisenGardenPress第3号』の発行を、5月26日恵泉スプリングフェスタまでに行うことで、了承した。

2. 行事報告

恵泉スプリングフェスティバル(2006年5月20日 土曜日)

G103教室で、公開講座や研究所活動報告(平和文化研究所も併せて)を実施した。第一には、6月からの公開講座「ボタニカルアート(植物画)入門」講師角田葉子氏の作品37点を展示した。角田氏は、日本ボタニカルアート協会の代表委員として、御活躍中である。作品の余りにもリアルな画像は、私たちに描きたい、いや描けるだろうかとのジレンマを感じさせるものであったが、是非受講したいと16名の受講生を迎えることができた。

第二には、園芸文化研究所の助成研究のポスター発表を行い、本研究所の研究内容を皆様に理解していただくことができた。本学では初めての研究ポスター発表であったことを記しておく。

ミセスゲイル・デリック先生の英国流フラワーアレンジメント レクチャー&デモンストレーション

恵泉女学園大学人間社会学部人間環境学科主催、園芸文化研究所共催
(2006年5月19日 土曜日 13:30~16:00)

“MyFavoriteFlowers”とのタイトルがつけられた今回のデモンストレーションは、まさにデリック先生のお好きな花のアレンジメントが会場一杯に次々と活けられた。作品は10点。その迫力と気品溢れる美しさに、参加者の皆さんお一人一人が制作意欲をかき立てられた。



恵泉多摩フェスティバル(2006年11月4~5日 土・日曜日)

11月4日(土)に、公開講座「家庭菜園教室」第12回目(講師:藤田智)と「バラを育てるⅡ」第2回目(講師:野村和子)を開催した。

3. 出版事業報告

研究所報告「園芸文化」第3号発行 (2006年5月20日)

表紙は、角田葉子氏のボタニカルアートで、「タチバナ」を描いていただいた。24編の研究論文等を収録できた。充実した内容に、多くの方々から講読希望が寄せられた。本編は、本学Webページでも閲覧が可能である。

本文216ページ、サイズ(cm) 21 × 14.7、表紙ボタニカルアート:「タチバナ」(角田葉子作)、1,700部